

久木小学校区住民自治協議会・広報誌

# 住民協ひろば

第60号（準備会から通算第81号）

発行日 令和4年4月2日

発行所 逗子市久木2-1-1

久木小学校区住民自治協議会

発行人 山崎 徳次郎

## ・・・2021年度総括・・・

日本で初めて新型コロナ感染者が出たのは2020年1月で神奈川県男性でした。その後感染が徐々にではありますが拡大し続け、2021年初頭には神奈川県も新型コロナ感染が大幅に拡大、事の重大さに対して政府は一都3県（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）に1月8日緊急事態宣言を発令。それでも終息に到らず度々宣言を発令しては延長、再延長を繰り返している事態です。事程左様に2021年度は発足当時から新型コロナウイルスに掻き回されて始まりました。とは言っても一時期、感染が幾分下火になり終息まじかかと思わる時期もありましたが、12月にはウイルスがデルタ株からオミクロン株に変異し、益々感染力を増し、感染拡大している状況です。歳が改まってもまん延防止等重点措置が続いています。

こんな環境下ではありましたが久小住民協はこれにめげる事無く各事業部は「ウイズコロナ」を意識し工夫を凝らして粛々と活動を実行してまいった2021年度だったと思います。

例えば世代間交流を目指した「みんなの食堂」はコロナ下では休止せざるを得ませんでした。 「久木朝市」はコロナ対応を意識し会館前の屋外で数回実施しており、回を重ねる毎に参加店数も増え、11月には社会福祉協議会との合同展開も行い、地域に根付きつつあります。

減災部会は実際に久小住民協の構成地域を部会が中心になって見て歩き、危険傾斜地の洗い出しを行い15ヶ所を指定し、逗子市に報告。定期的に意見交換会を実施し、具体的な対応を取りつつあります。防災体制に付きまして市の防災安全課と継続的に協議を行っています。

特記すべきは「住民協ひろば特別号」でふれあい部会が中心になって「福祉」を特集し、福祉って特別な事ではなく誰でも普通にやっている事だという事を知ってもらいたく、久小住民協地域内の全戸に配布いたしました。

広く住民協の活動を理解して頂くべく、広報誌「住民協ひろば」を毎月発行し、3月で59号になります。

ゼロコロナは今後も望み得ないでしょう、がしかし必ずや現代医学はコロナ感染をインフルエンザと同じように治療処理出来る方法を確認してくれると思います。

久小住民協は新年度も住民協の理念でもあります世代間交流、地域間交流を一層活発化出来る様活動して行きたいと思えます。

校区住民協 代表 山崎 徳次郎

## 令和4年3月度役員会

30分～15時15分、久木会館参加者20名（内役員16名）

開催日時と場所：2022年3月5日（土）13時

### 議題

(1) 事務局からの報告事項

① 2022年度総会準備作業のスケジュール

◆総会は4月23日に久木会館にて対面で実施する予定。尚、コロナの感染が拡大するような事

態となれば、書面 審議に切り替えることが確認された。

◆会計監査は3月30日午後3時～4時に実施

## (2) 審議事項

### ① 2022年度総会資料の件

◆総会の議事次第確認が行われ、総司会は持ち回りで、山の根会の森田会長に依頼した旨報告された。

◆第一号議案「2021年度活動報告(案)」が紹介され、各部会長からの提出情報の確認が実施された。いくつか部会長からの提出情報と違う点の指摘があり、事務局で確認することになった。

また兼ねてから、特集号に基づいて、当地域の福祉への取り組みを地域外の市民にプレゼンする機会の設定を市に要請していたが、3月10日に実現されるので、その件をふれあい部会の活動報告に追加することが確認された。

◆第四号議案「2022年度活動計画(案)」が紹介され、各部会長からの提出情報の確認が実施された。いくつか部会長の提出情報と違う点の指摘があり、活動報告と同様、事務局で確認することになった。

◆第六議案「役員選任の件」について確認された。  
・ハイランドの自治会長が海野氏から清水氏に交代することに伴って、自治会代表理事を変更する必要があるのかどうか、ハイランド自治会内で調整するよう依頼された。

・減災部会長の金子氏が体調不良で今年度限りで退任したい旨要請があることをうけて、後任に新倉氏の就任を打診している旨報告があった

### ② 2021年度決算書の件

2月末現在の本年度決算の報告があった。また、今年度の決算総括の為に、会計への支払い請求は3月28までに完了するよう要請された。

### ③ 拡大久木朝市の件

3月27日に予定している首題の件につき、住民協朝市メンバーの出店数は13、PTA関連の出店

する。また、久木会館の会計監査も同時に実施する予定とし、小林会館長に準備・調整するよう要請された。

数は7との報告があった。催し会場のレイアウトは今後作成予定。学校からの備品の貸借はなく、PTA関連の出店者は自己責任で備品の準備する旨報告された。

本件のコロナ禍での開催の是非は、現在3月21日までとなっている蔓延防止措置の延期が決定した場合、中止とすることが確認された。

### ④ 会員名簿の件

資料を基に、会員の確認が実施され、山下隆文氏、小野佐智子氏、竹田幸子氏の退会が確認された。また、各自名簿を再確認し、追記・削除の必要がある場合は、至急事務局まで連絡するよう要請された。3月末日の会員が総会の議決権者となる。

### ⑤ その他

a) 久木会館長より、久木会館の備品であるテーブルは、長年の使用により劣化、また会館の運営上毎回片付ける必要があるが、移動に困難な点があり、新形式の物を住民協の自主財源で購入出来ないかとの打診があった。

本件は、市の備品の刷新の責任、また旧備品の処分費用の捻出部署など不明な点が多々ある事から、再度議論する前に、会館長が市と調整するよう依頼された。

### b) ボランティア保険の件

みんなの食堂、朝市などの実施にあたって、ボランティア保険をかけているが、逗子市はボランティア保険に相当する、市民活動保障制度を実施しているの、住民協として保険をかける必要はないのではないかとの提起があった。

本件は、市民活動保障制度でカバーされる活動内容を確認して、再度判断することとした。

c) 住民協ひろばに、鈴木為之氏の執筆による、「カーボンニュートラル」特集を連載予定であることが報告された。

## 《2022年度総会開催のお知らせ》

久木小学校区住民自治協議会の2022年度総会を下記の要領で開催します。

ぜひご参加ください。

日時と場所：4月23日(土)、14時～16時、地域活動センター 久木会館



石炭、石油、バイオマス等色々な原料（1次エネルギー）から作ることが出来ます。グリーン電力を使った水の電気分解によって、まったく炭酸ガスを発生させないグリーンエネルギーとして作ることが出来ます。また人口光合成という光触媒を使って水から水素を作り出す研究も実証段階に入っています。水素は色々な資源から作ることが出来るので、エネルギーの自給率を高めるという「エネルギー安全保障」の意味からも重要視されています。水素は貯蔵したり運搬したりすることが出来るという使い勝手の良さもメリットとして挙げられています。昼間の太陽光発電の余剰電力を水素に置き換えて蓄電することも考えられています。海外の安い未利用の原料（豪州の褐炭）を使って水素をつくり専用船で輸入する実証実験も始められています。（作る過程で発生する炭酸ガスは回収・

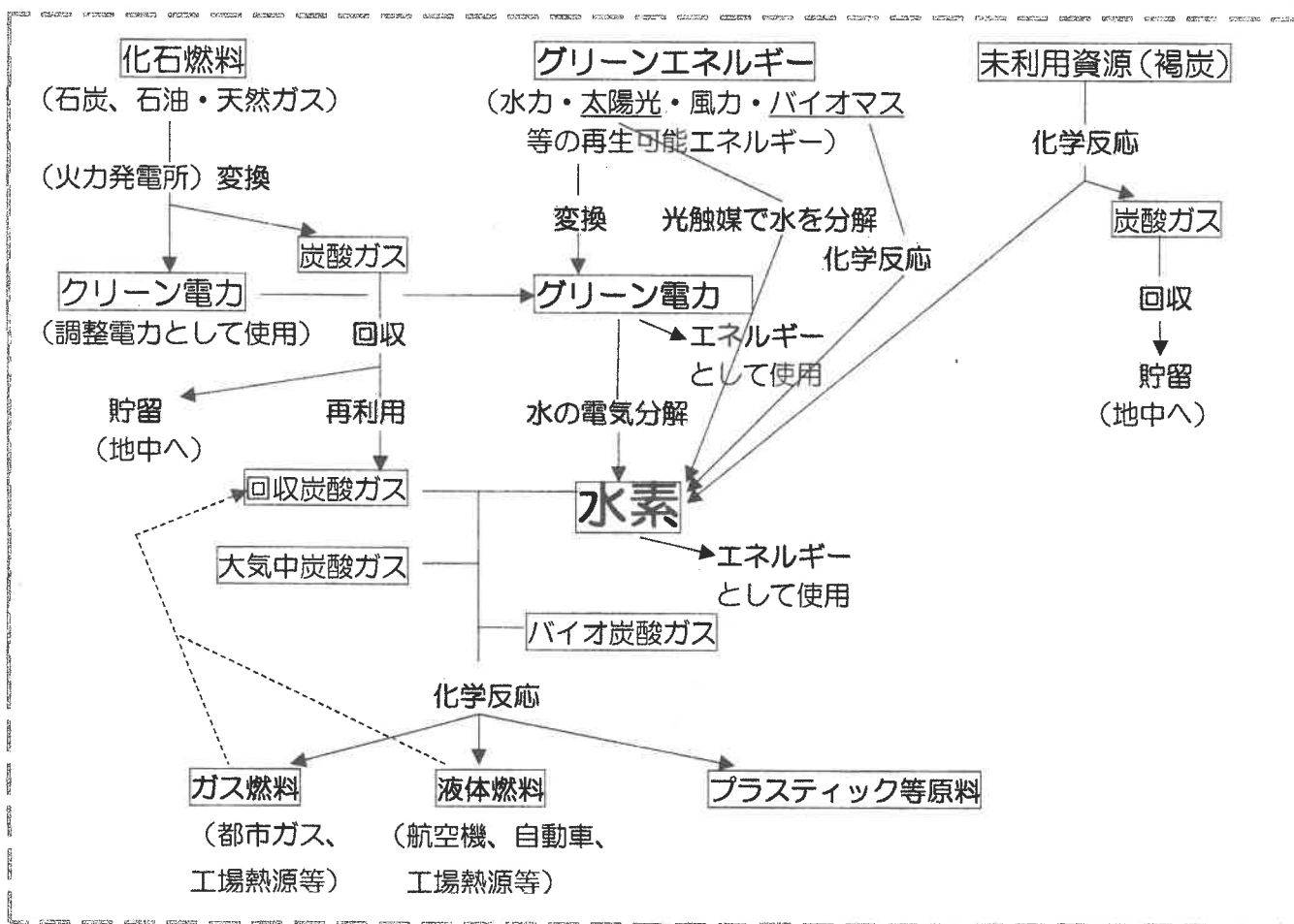
貯留（CCS）して発生を抑えることによりクリーンエネルギーにする。）

日本のエネルギーに関する基本的な政策として、水素社会へパラダイムシフトする研究開発が進められています。その全体像を描くと下の図のようになります。

\*（注）炭酸ガスを発生させないエネルギー（電力）を、一般的にクリーンエネルギー（電力）と呼び、特に水力・太陽光・風力・地熱・バイオマス（原子力を含まない）等の再生可能エネルギーをグリーンエネルギー、作られた電力をグリーン電力と定義しています。

（次回は6. 水素社会の幾つかの例、7. 合成燃料とメタネーション）

鈴木 為 之（山の根在住）



### 編集後記

春分（しゅんぶん）とは昼と夜が同じ長さになる日であり、自然をたたえ、生物をいつくしむ日とされている。多くの出会いや別れがあり、新生活の始まりなど変化が多いのもこの時期である。今年の春分の日は3月21日太陽の春分点を通過する日を春分の日と定め、国立天文台が毎年翌年の春分の日を発表する。地球が太陽の周りを回るのに1年と6時間、この端数があるので、毎年微妙に春分の日も異なる様である。食べ物も旬の野菜、魚などを楽しみ、そろそろ桜の花を楽しむ時期である、一方でこの時期は、その飛散する花粉も多く、花粉症の私としては妬ましい時期でもある。

事務局長 石井 達郎